

ホメオパシー的生き方の ススメ

インドの第一医学の1つ、ホメオパシーは、日本では「同種療法」とも呼ばれています。ホメオは「同種」、パシーは「苦しみ」と訳すように、症状と同じ性質を持つ自然界に存在する物質を限りなく希釈・振盪し、砂糖玉に浸して摂ることにより、その症状を出し切り、健康を取り戻すという療法です。「自然治癒力を高め、難病をも改善させる」と、日本でも広がりを見せているホメオパシーについて、日本の第一人者、由井寅子さんに詳しく伺います。



カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー CHhomシーエイチホーム学長 ホメオパシー博士 由井寅子氏

人生を変えた疾患

由井さんがホメオパシーに出会ったのは、深刻な潰瘍性大腸炎を患った約30年前のこと。今は健康そのものの由井さんだが、下血と下痢の繰り返しに加えて、貧血で立っていることさえ難しく、2年間の苦しみの末、体重は30キロ台にまで落ち込んだという。

「当時、英国でテレビの制作やレポーターの仕事をやっていたが、不規則な生活が続いていたところに事故や戦争などの取材が重なり、気持ちが悪く不安定に。体調がどんどんおかしくなりました。ところが、あるホメオパス(ホメオパシー療法家)にかかり、完治することができたのです。そのとき処方された小さな砂糖玉(レメディー)に含まれていたのは、人間にとつて毒であるヒ素とがん細胞ですが、「希釈・振盪され、銀河系に涙を一粒落としたようなもの」と言われ、「50ポンドも扱ったんだから、騙されたと思つて飲んでみよう」と。すると、好転反応で高熱が数日続いたものの、10日目には生まれ変わったように体も心もスウキリし、庭の花たちも生き生きと輝いて見えて、本当に驚きました。

そして、英国の大学で5年間ホメオパシーを勉強し、資格を得たのち、患者さんを診るようになったのですが、私の治療を受けるため、日本からわざわざ飛行機に乗ってやってくる方が増え、1997年に帰国を決めました。その後、日本ホメオパシー医学協会を設立。あの疾患が私の後の人生を変え、病氣は生き方が間違えているお知らせだったと今は思っています」

自然とともに生きる

ホメオパシー療法では、ひと口に「風邪」と言っても、処方される物質は変わってくる。たとえば、「人間関係から心が冷えている」「体も冷えている」「黄色の痰や鼻水が出る」といった症状の場合、アネモネ科の「おきな草」をレメディーに使う。健康な人がおきな草をとると、体が冷や黄色の鼻水がでる。ホメオパシーは同種療法と言われ、希釈・振盪したおきな草を摂ると、物質はないのに、あたかも毒が入ったかのように「自己治癒力



CHhom池尻校舎外観



ホメオパシー健康相談の様子



スタッフの方々とお米の収穫!



自然な農業に取りくむ由井さん

が触発され、体内で毒を分解する消化酵素がつかられ、その風邪の素となったウイルスなどを溶かしてくれるという。薄められていて、物質がないものなので、幼児にも妊婦さんにも使えるのが特徴だ。

「最近、増えているお子さんの発達障害、特に自閉症は、予防接種が原因とも言われていますが、ホメオパシーはそのような症状にも非常に有効です。予防接種の中には、大量の水銀やアルミニウム(酸化アルミニウム)などの物質が含まれており、彼らが受けている9種類の予防接種そのまま希釈・振盪したレメディーを摂らせるところ、私が治療した168名のうち、91%に発語や多動の改善、自分で身のまわりのことができるなどの好転が見られました。ホメオパシーは、その症状を起すものは、薄めてあたえたと、その症状をとっていくという同種療法である。今、日本には、全国に約300ヶ所のホメオパシーセンターがあります。JPHMA認定ホメオパスが、ホメオパシー健康相談を行っています。一人で悩まずに、ぜひご相談ください、お子さんの可能性を広げていただきたいと思います」

さらに、自然治癒力が発動すると、体内の不要な体毒だけでなく、長い間心のために込め込んできたネガティブな感情も排出されやすくなるという。「私は、生き方そのものもホメオパシー的に生きる自然生活をすすめるのです。予防接種の判断もそうですが、農薬など自然でないものを極力遠ざけ、何かの症状が出て、薬ではなく、体がやることを信じてできる限りそのまましておく。そうすると、体が賢く働いて、悪いものを外に出してくれるのです。心に関しても、人よりがんばらなさいいけない、人より優秀でいなければと考えるのではなく、今の等身大の自分に満足し、苦しみでも悲しみでも、その人生で与えられたものをありがたく受け取り、感謝と受け入れ心を養うことが、内面から輝く秘訣ではないでしょうか」

由井寅子(ゆい ーとらこ)

1953年生まれ。プラクティカルホメオパシー大学大学院(英国)卒、Hon. Dr. Hom/Ph. D. Hom(ホメオパシー名誉博士・ホメオパシー博士)。日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)会長、カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー(CHhom)学長。ホメオパシー学術誌『The Homeopathic Heritage International』B. Jain Publishing House の国際アドバイザー。そのホメオパシーの実践とハーネマン研究は世界的に評価され、21世紀のホメオパシーをけん引する指導的なホメオパスとして期待されている。著書、論文、訳書多数。

【Chhomホームページ】<http://www.homeopathy.ac/index.php>

2007年6月



2007年8月



トビーのお子さんの病状の変化

2008年8月



レメディー(砂糖玉)ホームキット